

発行所 青山同窓会 新潟市関屋下川原町二 新潟高校内 発行人 齊藤希式 印刷所 オリオン印刷機

四十四年新年会

大和・食堂で開催

恒例の日、一月二十一日(火曜)を附議、齊藤幹事長より説明があらはれ、大和百貨店食堂で開かれ、出席者百三十名。

鍵富会長、渡辺校長並に会員を代表して渡辺市長三者の年頭の挨拶があつて、議事に入り、

一、青陵健児の像建設募金収支決算承認の件。

二、募金成績優良(目標額突破)の期を表彰の件。

を附議、齊藤幹事長より説明があらはれ、満場一致で承認。終つて懇親会に移り、最長老本間孝義氏の乾杯の音頭で開宴、酒間大いに歡を尽した上、万歳三唱して閉会。いつもながら三々五々友を呼び類を語らつて、喜々として散つて行つた。

表彰を受けた七クラスは左の通りである。

順位	期別	目標額	入金額	人員
1	59	五万	六、〇〇〇	81人
2	52	七万	一七、〇〇〇	107人
3	38	八万	二、五〇〇	44人
4	54	六万	五、〇〇〇	53人
5	39	八万	六、〇〇〇	35人
6	63	四万	四、五〇〇	46人
7	48	七万	六、五〇〇	41人

番外『会務報告』

幹事長 齊藤希式

県の教育委員会では、今年から学校の施設内に酒類を提供する会合を持つことを取り止めて貰うことに決定したという。

べつに条例等の強制的規制に拠るものでないらしいが、何か不祥事があつたことが原因になつたことだろうし、問題の再発を根本的に防ぐ建前からいへば、勿論適正な処置にちがいない。当時あまり世評の論議を呼ばなかつたようだが、本質的には学校を抜きにしてはあり得ない行事を持つて同窓会等の団体にとっては、正に革命的大異変なのである。

しかし、何よりも学校当局の立場もあることだし、第一同窓から

通信制同窓会開催

学校幹事 南雲照三

去る三月十五日(土)新入同窓会員歓迎を兼ねて、恒例の通信制同窓会が小林百貨店食堂にて行なわれた。この会も今年で九回を数え新入会員六十名を加えて会員総数も二百六十二名に達した。発足当時、何時になったら三桁の数になるだろうと想像した昔がなつかしい。しかし県下各地に分散し、県外へ出ている同窓の多い現状から果して何名が出席できるか、心配であつた。

定刻午後五時よりまず定例総会を進行係藤田隆一、佐藤達夫の両氏、議長高橋栄治氏により行なわれ、席上次の事項が決定された。

役員について

副会長、学校幹事をそれぞれ二名制に増員、会長に前、伊藤浩氏



白根の同窓結集

白根青山同窓会 発会の記

四月のある日吉川文雄さんに会つた時、白根の青山同窓会をやろうじゃないかと話をきつかけに、白根北銀勤務の山本さんを時開会としていたが、白根時間のルールを忠実に守りながら開かれた。集まる(三十数名、来賓に鍵富会長さん、齊藤幹事さん、母校渡辺校長先生、永年教師をとりたれた現味方村長の木村先生、沢山先生、地元の外川先生をお迎

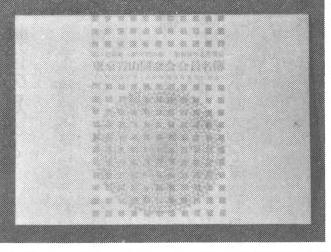
同窓、黒埼村長に当選

同窓四八回、清水喜夫氏(東大医学部産婦人科医院開業)は、一月二十三日西蒲原郡黒埼村村長に村内一致の推薦で無投票で当選就任されました。

学校職員の移動

- 母校の象徴的存在であつた渡辺秀英、沢山巖、岩野祐吉、石本謙三の四先生が本年三月をもって母校を去られました。惜しみもなくお祈りあることではあります。これも天のなすわざ、いかんともなすがたいことであります。四先生も、新たな御活躍の場を得られて、後進の御指導に當つておられます。
- かわつて八名の俊英が赴任されました。去られた四先生の御健康御活躍を祈念申し上げるとともに新任の諸先生の御健勝をお願い申し上げます。
- | 退任 | 新任 |
|-----------------------|------------------------|
| 35回 沢山 巖 数学 明訓高校 | 35回 石本謙三 理科 明訓高校 |
| 35回 岩野祐吉 国語 明訓高校 | 後藤 洪之 英語 県教育庁指導主事 |
| 66回 片山 真理科(通信) 岩農業高校 | 51回 近藤俊之 数学 白根高校 |
| 67回 齊藤真憲 英語(通信) 沼垂高校 | 53回 金子彰男 国語 長岡高校 |
| 68回 若林茂敬 理科(通信) 鏡岡高校 | 53回 榎沼昭夫 英語(通信) 新潟中央高校 |
| 68回 渡辺銀次郎 国語(通信) 小出高校 | 67回 齊藤真憲 英語(通信) 沼垂高校 |
| 68回 渡辺銀次郎 国語(通信) 小出高校 | 68回 若林茂敬 理科(通信) 鏡岡高校 |
| 68回 渡辺銀次郎 国語(通信) 小出高校 | 68回 若林茂敬 理科(通信) 鏡岡高校 |
| 68回 渡辺銀次郎 国語(通信) 小出高校 | 68回 若林茂敬 理科(通信) 鏡岡高校 |

東京青山同窓会 会員名簿完成



かねてから東京青山同窓会の大同結成の動きが活発であつたが、なによりもまず、会員の所在を把握し、昭和三十九年四月東京在住の二三八〇名について掲載する会員名簿の完成をみた。

この完成をみるに至つたについては、特に50回から60回にかけての卒業生の諸兄が活躍されたのであるが、なんと一つも会員の諸兄の絶大な協力があつたためである。

同会員名簿は、金山常吉氏(60回)の見事な表紙デザインに生まれ、口絵には旧校旗、青陵健児服装変遷之図など多くのなつかしい記録、そして約一五〇頁にわたる二〇〇〇名以上の諸兄の消息を掲載し、編集子をして「掲載事項もほぼ正確であると自負する」とまで明言させているのである。

同窓会本部としてもこの偉業に大いに励まされ、80周年行事の一つとして、70周年記念として発行された会員名簿の大改訂に取組まんとしている。

なお、東京青山同窓会会員名簿は本部事務局にも相当冊数があるため、御希望の方におかけいたしますので、お申し出下さい。

60回 上杉雅之 英語 通信制より 全日制へ

62回 田村誠一 国語 通信制より 全日制へ

青山同窓会と共に

35回 沢山 巖



米国の艦載機が低空で東京に侵入して、襲撃を加えるようになってから、戦争が実感として身近か

に迫って来た昭和十八年、恩師歌

川先生が、私の知らぬ間に父と交

渉されたりして、東京生活に未練

を残しながらも、まだ平静さを留

めていた食糧豊かな故郷に帰るこ

とになった。

卒業して十数年振りに、思い出

の数々残る母校の教壇に立つとは

考えても見なかつたことであつた。

グラウンドの五本松や、亭亭たる

ポプラの木を見ただけでも、「あ

あ青陵に正気あり」の応援歌が、

少年期の感傷と共に魅みがり、

青年教師の胸を湧き立たせた。

歌川先生が、君の中学時代の数

学の点はここにあるよと、虫干し

までして大事に保管されたエンマ

帳を見せられて、恐縮しながらも

母校の教師となつたからには、俺

の生きるところはここだ、吾が教

師としての生命の果てるところは

ここだ、と決意して、二十六年間

自分でもあきれ程の永い期間崇

敬して止まぬ風格のある名校長職

先生を初め、恩師、先輩の諸生に

導かれながら、初志通り数学の

教師を続けて来られたのは、私に

とって一生の光栄と思う次第であ

つた。

ほんとうにご苦労様でした

半生を青山の歴史と共に生きて来られた
四先生への惜別の情をつなぎたく特集し
ました。

編集部



楽しみの二十二年

渡辺 秀英

戦後校長に引き取ってもらつてから、昭和四十四年三月まで二十三年の長い間新潟高校に勤めさせて頂きました。昭和五年以来四十年にわたる教員生活のうち、小学校九年、柏崎中学校五年、鳥取師範二年をのぞいて、残りの大半を本校に過したことになります。

孟子は「天下の英才を得てこれを教育するは第三の楽しみなり」と書いておられますが、まことにその通りで、英才を得て思うがままに活動することのできたことを心から楽しんでおりました。

よく言えば個性的であり、悪く言えばわがまま、とにかく誰に気

空前絶後

岩野 祐吉



梅田校長先生から、武田慎三郎先生が応召中なので来てほしいとわざわざお訪ねいただいた新潟中学校にお世話になり、名残を惜しみつつ世の規律に従って新潟高等学校を退くまでの満三十年を青山で過ごさせていただきました。同

校に人生の主要部分をこんな長くお世話いただいた先生は、私の前にもおられず、今後とも絶無と思われまふ。まことに、空前絶後の幸せ者でした。至らない私をかばって下さった寛容な同窓の皆さんに深くお礼を申し上げます。

亡き母は帰省するたびに、村はずれまで重いトランクを抱えてきてくれ、生徒さんをよく教えてやると、くり返し言われたし保険の外交員となられた教員の佐藤文平先生は、教務室に入っただけで、「これは煮ても焼いても食わない古ダスキ」とわかる奴がい

がねもなく自らの思うがままにやられたのは本校ならばこそ感謝にたえません。諸君のなかにはさんざん迷惑されたものも多く申訳なく思っております。今や卒業された諸君は、それぞれ立派に成長して活躍されている姿を見るのが喜びにたえません。一層発展を祈つてやみません。

本校を退いたあと、二つの仕事があります。新潟大学の講座では先人の書蹟の読める人物を養成することです。少し草書をまじえるとうれい。これでは先人の文化との断層ができてしまふ。この断層を埋める仕事をやらせたい。

思い出

35回 石本 謙二



今年三月、二十二年間も勤めて来た新潟高校を去り、湯沢校長先生のお世話で明訓高校へ移った。

が、よくも長い間どうにか無事に生きて来られたものだ、多くの人々に感謝している。大正十二年から昭和三年に至る新潟中学校時代はなつかしい。

特に五年間の汽車通学は思い出しても楽しい。竹刀をかついだ上級生が口角泡を飛ばして談笑しながら学校まで歩く。それを聞きながら通うのだからちつとも退屈しなかつた。なつかしい先生方もたくさんおられた。惜しいことに若死

退職の四先生を迎え 湯沢で痛飲

青山60回生同級会開催



青山六〇回生 一九六九、四、五 湯沢温泉 白銀閣

白銀閣上白銀飛 四月猶看臘月威 衆弟衆師同酒坐 歡談驚々旧時帰

昭和四十四年四月五日(土)湯沢温泉白銀閣ホテルにて青山六〇回生の同級会が催された。

冒頭に掲げた渡辺秀英先生の即吟七絶の如く、その日湯沢は吹雪であつた。それにもかかわらず馳参したるは生徒二十九人、そこへ恩師を七人お迎えして三十六人の盛会となつた。

もともとこの会は、昭和四十四年の春をもって、我等六〇回生が六年間の旧中、旧制高の在学中に教を垂れられた沢山巖、岩野祐吉、渡辺秀英、石本謙二の四先生が、定年退職にて母校を去られると聞き、どこかで一夜ゆつくり飲み明かし、語り合つて送別の会をやりたいと前々から計画されて居たものであつた。

当夜の模様はここに記しきれない。感懐爆発いりみだれて、卒業以来十七年の歳月を瞬間にして往時に帰してしまつたのは、前記四人の先生方に加えて、同じく六年

間を教えられた青川正敏、松浪清大橋、助の三先生もかけつけてくださったお陰であつた。また参集二十九人の名を列記すると、池端哲、伊狩武雄、小林庄一郎、浜田達三、中村信夫、石田章、藤保夫、小林昭二、成田慎作、宮北勉、田村和郎、水戸久信、渡辺祐吉、小林亨、橋本行雄、山崎勝朗、本間一浩、小林武、田村誠二、古山貫之、市村檀、清水捷一、西脇満、小林智明、星野昇、金子英勝、中山論、市岡広、五十嵐康男の面々であつた。

午後四時頃に着いた宿の外は吹雪、その雪景色を眺めながら大きな丸い温泉に浸っていると懐かしい顔がぞくぞくと入って来て湯ぶねに浮かぶ。

六時半に記念撮影、開会となつた。ここで先ず挨拶ののべられた四人の先生の言葉は、和氣に満ち格調高く、また飄した味もあつて深く我等の心を打つた。ここにその全文を記載して、ひとり我等六〇回生のみにとどまらず、母

次頁上段へつづく

前頁下段よりつづく

校を去る時の先生方の愛惜の情を知っていたかと思ふものである。忘れられない、懐かしいその話し振りを、鮮やかに浮かび出して...

ボツカリと陽がさしておった新潟から、はるばる吹雪の中をつきつて、この湯沢の地で、こういふ会合を催されるということは、こ...

また末長く、私も長生きをしたかと思ふ。別れて来た生徒達も「先生、長生きをしてくんなさい」という言葉を私に贈ってくれた...

何回もこういう会合に逢います。皆様の立派になってゆく姿を、行末長く見まわって行きたいと思つています。今回は記念品等も...

それでは二つ申しあげます。一つは、石川校長先生と何かの関係でタクシーに乗った事があるんですが、そのタクシーの中で「岩野...

それでは二つ申しあげます。一つは、石川校長先生と何かの関係でタクシーに乗った事があるんですが、そのタクシーの中で「岩野...

それでは二つ申しあげます。一つは、石川校長先生と何かの関係でタクシーに乗った事があるんですが、そのタクシーの中で「岩野...

それでは二つ申しあげます。一つは、石川校長先生と何かの関係でタクシーに乗った事があるんですが、そのタクシーの中で「岩野...

それでは二つ申しあげます。一つは、石川校長先生と何かの関係でタクシーに乗った事があるんですが、そのタクシーの中で「岩野...

それからもう一つは、昨日まで私は実は定年とか、退職とかという言葉を、これはあんまりいい気が...

「お前さん、お前さん、お前さん」といふ言葉を、これはあんまりいい気が...

「お前さん、お前さん、お前さん」といふ言葉を、これはあんまりいい気が...

「お前さん、お前さん、お前さん」といふ言葉を、これはあんまりいい気が...

「お前さん、お前さん、お前さん」といふ言葉を、これはあんまりいい気が...

「お前さん、お前さん、お前さん」といふ言葉を、これはあんまりいい気が...

「お前さん、お前さん、お前さん」といふ言葉を、これはあんまりいい気が...

「お前さん、お前さん、お前さん」といふ言葉を、これはあんまりいい気が...

「お前さん、お前さん、お前さん」といふ言葉を、これはあんまりいい気が...

旧制の終りの頃を想う

55回 渡辺知一

新潟高校教諭

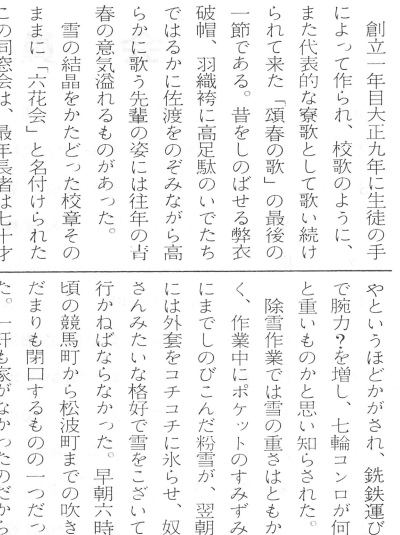
霧たなびく青山の松のみどりの色深く... 東校所をゆるがす応援歌の練習...

霧たなびく青山の松のみどりの色深く... 東校所をゆるがす応援歌の練習...

霧たなびく青山の松のみどりの色深く... 東校所をゆるがす応援歌の練習...

霧たなびく青山の松のみどりの色深く... 東校所をゆるがす応援歌の練習...

霧たなびく青山の松のみどりの色深く... 東校所をゆるがす応援歌の練習...



創立一年目大正九年に生徒の手によって作られ、校歌のように、また代表的な校歌として歌い続けられて来た「頌春の歌」の最後の...

やというほどかさがされ、銃鉄運びた「にしん」をもらい、意気揚々と親孝行の気分を味わった。鉄網作業をやりながらだべりあ...

で、当時すでに手に入りにかつくなつて早弁禁止令が出る始末。そこは新中健児、腹が減って戦さ...

名古屋からはるばる記念式にやつて来た旧制高校の先輩に紹介され、「二十九回の渡辺です」と名...

お釈迦さまとらめつこ、鐘をたいて叱られた。そこら中の壁に群つていたへつり虫の臭がした...

お釈迦さまとらめつこ、鐘をたいて叱られた。そこら中の壁に群つていたへつり虫の臭がした...

伊豆の旅

志田耕吉

新潟高校教諭

南伊豆へ下りの路となりしより... 伊豆の海を満ちて輝きやし...

南伊豆へ下りの路となりしより... 伊豆の海を満ちて輝きやし...

南伊豆へ下りの路となりしより... 伊豆の海を満ちて輝きやし...

南伊豆へ下りの路となりしより... 伊豆の海を満ちて輝きやし...

南伊豆へ下りの路となりしより... 伊豆の海を満ちて輝きやし...

